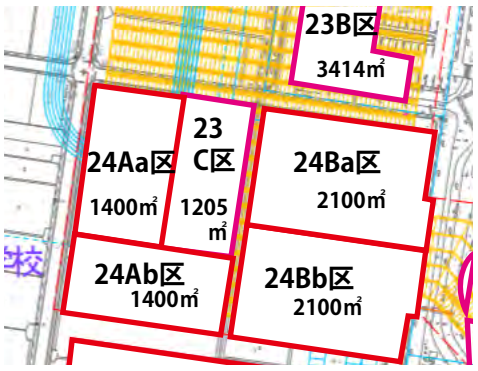
青山神明遺跡
発掘だより第5号

令和６年　11月



24A・B区拡大図

◆青山神明 24A・B区の調査◆

この調査は大山川洪水調節池の工事に伴い令和６年5月から9月にかけて行いました。調査面積は7000㎡です。昨年度調査区では、主に鎌倉時代から明治時代の遺構が確認されています。今回の調査区は、昨年度23C区の隣接する箇所になります。

青山神明遺跡 24A・B区 位置図 (黒丸)

◆ 24A・B区 概要◆

24A区からは、室町時代の井戸、柱穴（ちゅうけつ）、明治時代の溝や道路が複数見つかっています。

24B区からは弥生時代の土坑が２基、室町時代の井戸が２基、江戸時代以降の溝が2条、井戸が１基見つかりました。またB区の調査区中央部には、黒色土の堆積（たいせき）が確認されました。

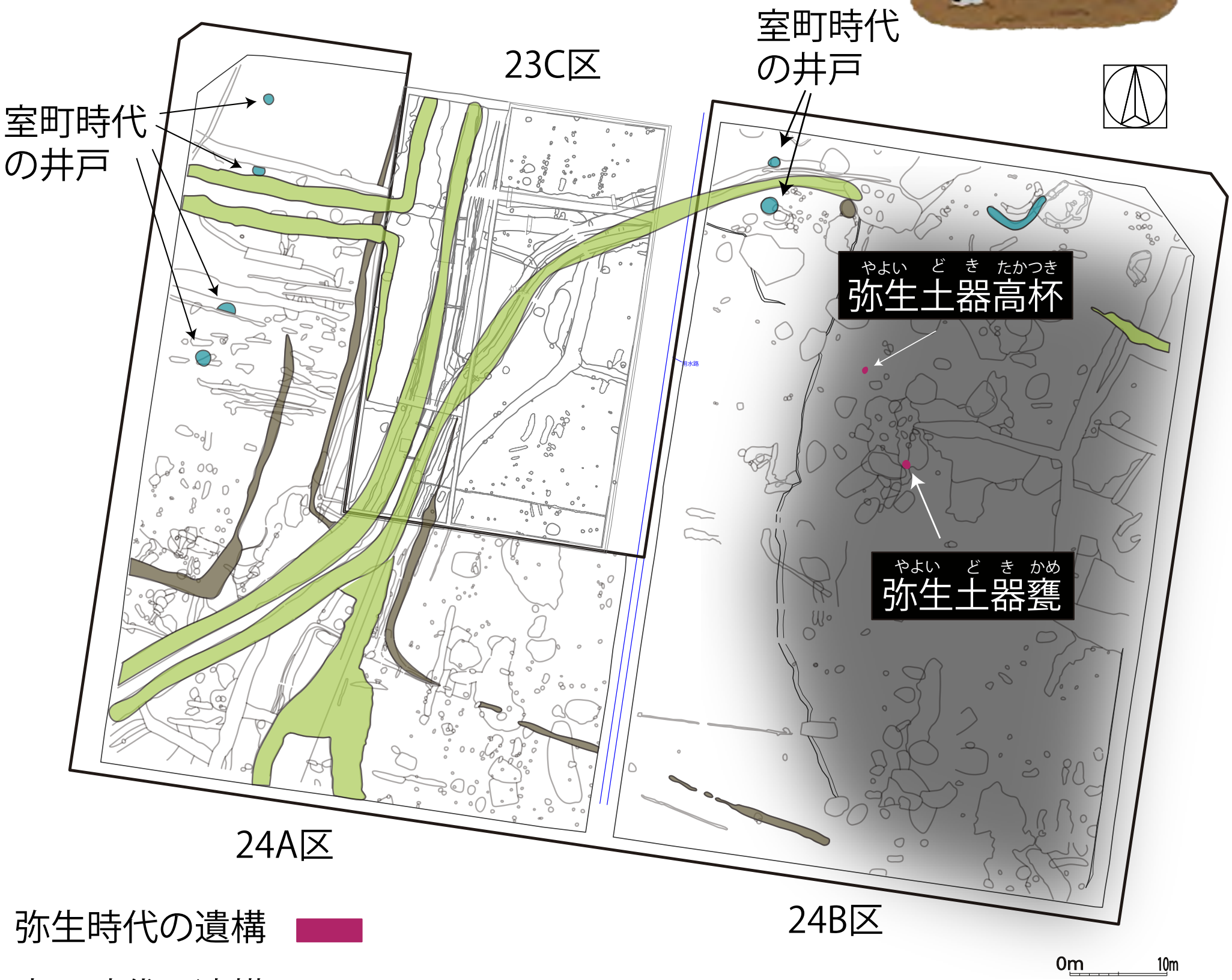
◆ 弥生時代前期(2500年前)の出土遺物◆

今回見つかった弥生時代の土坑は、これまで行われてきた青山神明遺跡の発掘調査の中で一番古い遺構です。弥生時代・遠賀川（おんががわ）式土器（かめ）の甕（こうえん）の口縁部（ぶ）が出土しました。口縁部の刻み目の模様と沈線（ちんせん）が特徴です。また、近くの土坑からは弥生土器の高杯（たかつき）が見つかりました。

編集
公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP　http://www.maibun.com
ＴＥＬ：0567-67-4163

調査支援
株式会社 二友組
〒465-0093 名古屋市名東区一社四丁目255番地

青山神明遺跡
調査概要



◆ 黒色土の堆積◆

今回24B区では、黒色土の遺物包含層が確認されました。この堆積は、室町時代より後に堆積したと考えられています。遺物は、須恵器(すえき)や山茶碗(やまちゃわん)、陶器類(とうきるい)などが出土しています。黒色土の下の礫層から山茶碗が出土しています。

◆ まとめ◆

今回の調査区は、A区とB区で様相が異なることがわかりました。A区では、主に江戸時代以降の溝や道路が見つかりました。B区では、調査区の半分以上の範囲で黒色土が広がっていました。鎌倉から室町時代にかけては、A区では柱穴や井戸が見つかっているため集落が営まれていたと考えられます。江戸時代になるとA・Bでは区画溝が確認され田畑として使われていたと考えられます。

青山神明遺跡 24A・B区　発掘調査写真

24A・B区遠景 (北より 撮 影)
右側がA区で左側がB区です。

２４Ｂ区　弥生時代前期（約2500年前）の甕
遠賀川式土器です。

24B区　弥生時代の高杯
土坑の中に入っていました。

24A区　鎌倉時代の小碗
土坑の上に据えられていました。

24B区　室町時代の東濃型山茶碗
溝の中から確認されました。

24B区 井戸断面
室町時代の素掘りの井戸です。

24A区　明治時代の道路と溝（南から撮影）
複数確認できます。

24A区　明治時代の道路断面
何回も作り直されていることがわかります。